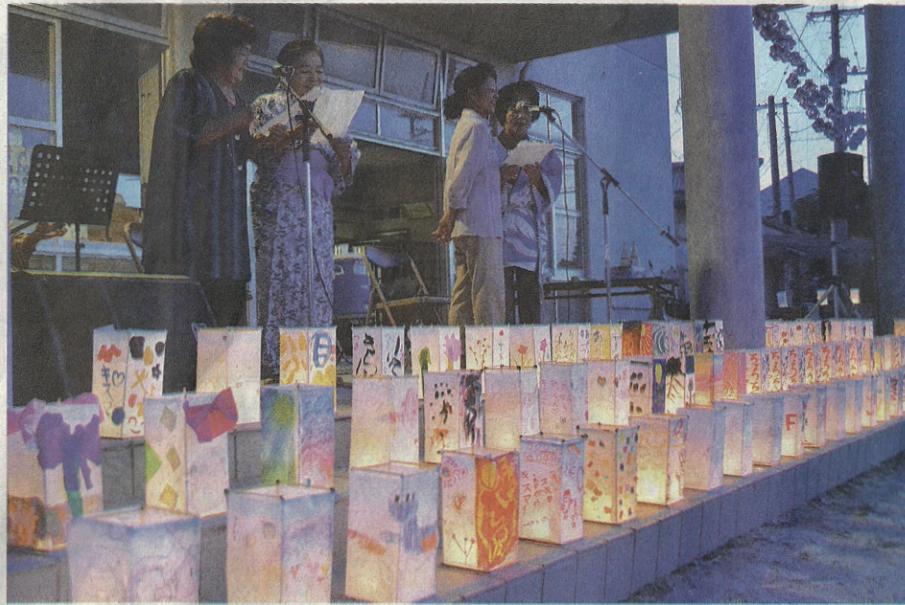


神秘的な世界演出

提灯300個ともし、民謡披露

池間島ちようちんまつり



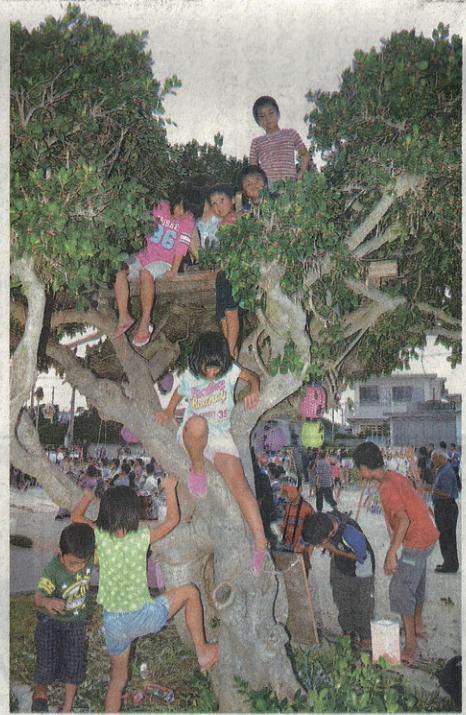
提灯の明かりで民謡を歌う地元の女性たち=8日、池間島



参加者らは月と提灯の明かりの中で民謡の余興などを楽しんでいた



手作り提灯は人気を呼び、記念撮影する人が多かった



子供たちはガジュマルの樹の上に作った「十五夜ヤガマ(屋小)」で楽しんでいた

旧暦8月15日の「十五夜に各地でさまざまな催しが行われた。満月の下、地域に古くから伝わる踊りや綱引きで豊作などを祈った。上野原地区の豊年祭「野原のマストリヤー」では勇壮な棒踊り、池間島では「ジユゴヤちようちんまつり」と銘打ち、手作りの提灯(ちようちん)約300個が神秘的な世界を作り出した。狩俣自治会では綱引きが行われ、観光客も混じて全長約70mの綱を引いた。

旧暦8月15日に当たる8日、池間島の水浜広場では、

「ジユゴヤちようちんまつり」(主催・いけま島おこしの会)が初めて開催された。子供から大人までが手作りの提灯(ちようちん)約300個を持ち寄り会場を彩った。提灯にあかりがともきれる「神秘的な世界」に包まれた。観客らはきれいな歌声を上げていた。

会場の一角に生えるガジュマルの樹の上部には昔ながらの青空天井の「十五夜ヤガマ(屋小)」が設けられた。地上から高さ約3mで広げた枝を利用して送っていた。

2014年度地域づくり支

援事業で実施した。高齢者台に設定。月明かりの下、女性たちが各グループに分かれ、「池間島音頭」や「池間島カヌシャガマ」、「池間島

説」「デンサ一節」などを熱唱した。観客らは、満足

感と誇りを持つ子供たちを

地域ぐるみで育てるのが目

的で催された。

島おこし会は、同自治会

着と誇りを持つ子供たちを

地域ぐるみで育てるのが目

的